

# FIFTYS PROJECT ワークショップ報告書

社会調査支援機構チキラボ

## 目次

はじめに .....	3
先行研究 .....	3
RQ：リサーチクエスション .....	5
調査設計 .....	5
調査Ⅰ：ワークショップ—KJ方法 .....	6
調査Ⅱ：アンケート—質問紙 .....	6
調査Ⅰ：ワークショップ .....	7
記述内容の分析—グループピング .....	7
記述内容の分析—共起ネットワークとトップワード .....	9
【立候補決断前】 .....	10
【立候補決断後】 .....	18
記述内容の分析—タイムラインと体験群 .....	26
FIFTYS PROJECT への評価と課題 .....	27
調査Ⅱ：アンケート .....	31
質問紙の詳細 .....	31
アンケート分析 .....	35
Q1. あなたが立候補した理由やきっかけについて、以下の項目がどれくらい当てはまるか 教えてください .....	35
Q2. あなたが特に力を入れて取り組みたいと思っている分野を、3つに絞って丸をつけて ください。 .....	36
Q3. 立候補を決める段階から選挙期間の間に、以下のような経験をしましたか？あなたに 当てはまる度合いをおしえてください。 .....	36
Q4. 立候補を決める段階から選挙期間の間に、次のような問題を感じましたか？あなた に当てはまる度合いをおしえてください。 .....	38
その他基本属性 .....	39
おわりに .....	40

## はじめに

2023年5月13日（土曜日）、FIFTYS PROJECT 主催のワークショップが行われた。

FIFTYS PROJECT は、「政治分野のジェンダー不平等の解消を目指して、ジェンダー平等実現を目指して地方議会議員に立候補する20代・30代の女性（トランス女性を含む）やノンバイナリー、Xジェンダー等の方を増やし、横に繋ぎ、一緒に支援するムーブメント」であり、2023年の統一地方選挙では29名の立候補者を支援。そのうち24名が当選した。

ワークショップには、落選者も含め、21人が参加。オフラインとオンラインでのハイブリッド開催で行われた。

ワークショップの目的は、20～30年代の「若年女性」である参加者が、出馬経験を通じて、どのような景色を見たのか。そこで何を感じ、どのような課題に直面したのか。その可視化を通じて、政治環境を見直すための政策提言などに活用するとともに、今後出馬する女性候補者にとって、参考となる知見の手がかりをまとめることである。

## 先行研究

「女性政治家」が増えることの影響は、さまざまな先行研究でも指摘されている。その一部は、社会調査支援機構チカラボが2022年7月18日に発表した「『女性政治家』『女性候補者』が増えることの影響に関する調査報告」においても整理した。

女性候補者の増加が与える影響について、まずはいくつかのポイントを整理しておきたい。

・女性候補者の存在は、政治的関心や議論の度合いと関連する社会人口学的指標や態度指標を統制した後でも、女性有権者の政治的議論への意欲を高めていた(Reingold & Harrell, 2010)。

・女性候補者が選挙に出馬することは、特に女性有権者の政治参加を増加させるが、有権者が下す政治的決定とは切り離されていた。つまり、研究対象となっていたアメリカの選挙に限って言えば、「女性候補者だから当選しにくい／選ばれやすい」ということはないということであった (Dolan, 2014)。

・同様の指摘は、他の研究者も行っている。同時に、女性候補者がロールモデル化することは、性別ステレオタイプや性役割意識に変化をもたらし、女性がリーダー的役割を担うことの一般化につながりうることも指摘されている (Brooks, 2013)。

※ただし、メディアの女性描写がステレオタイプになることは過去の研究でも指摘されてきており、「有権者の投票行動への影響」と「候補者が抱く心理的負荷」とは別であるこ

と点は重要である。

・女性政治家の誕生は、その後の女性候補者の増加に影響を与える。(Jankowski et al. 2019)

・ある時点で女性候補者に確保されていた選挙区では、その後の選挙でも他の女性が当選する可能性が高かった。また、女性候補者全体の数も増加した。ただし、「エンパワーメント効果」についての議論は一様ではない。政治家としての女性のキャリアにどれほど多くの障害が横たわっているかを見ることは、他の女性たちへの「怖気づき」を与える可能性も指摘されている。(Foos and Gilardi, 2017)

・「伝染効果」(Contagion Effect) についての議論も注目される。しばしば左派的な政党が、政治的スタンスのみならず、支持者から「女性蔑視的である」という非難を避けることを含め、女性候補者を多く選出する傾向がある。逆に右派的な政党が女性リーダーを選出した場合、対抗する左派政党をさらに刺激し、よりジェンダー平等であろうとする動機付けを与える(Jankowski et al. 2019)。

・女性は勝ち目のない候補地に割り当てられ、男性は勝ちやすい候補地に割り当てられやすいという「いけにえの子羊」(sacrificial lamb) モデルについては、いくつかの先行研究で論争がある。昨今の先進国における調査では否定されているものの(Ferran, 2021 など)、時期、地域、国、政党などによって、実質的な状況が異なる可能性がある(辻、2020)。

・(Brooks, 2013) においては、女性候補者の出馬は、男性有権者および男性候補者に対しても、女性政策などへのコミットメントを深めることが指摘されている。

※これらの指摘は、いずれも主に海外論文を元にするものであり、2020年代の日本に直ちに当てはまるかは不明である。

Reingold, B., & Harrell, J. (2010). The impact of descriptive representation on women's political engagement: Does party matter? *Political Research Quarterly*, 63(2), 280-294.

Dolan, K. (2014). *When Does Gender Matter?: Women Candidates and Gender Stereotypes in American Elections*. Oxford University Press.

Brooks, D. J. (2013). *He Runs, She Runs: Why Gender Stereotypes Do Not Harm Women Candidates*. Princeton University Press.

Foos, Florian, and Fabrizio Gilardi. 2017. "Role Models Can Decrease Women's Political Ambition." Working Paper, January 14.

<https://fabriziogilardi.org/resources/papers/FoosGilardi.pdf> (accessed February 7, 2019).

Jankowski M, Marcinkiewicz K, Gwiazda A (2019) The effect of electing women on future female candidate selection patterns: findings from regression discontinuity design. *Politics & Gender* 15: 182-210.

Ferra, Ignacio.(2021). 'Sacrificial lambs' or candidate mimicking? Gender-based nomination

strategies in elections” <https://journals.sagepub.com/doi/10.1177/1354068821998235>

「カナダの事例（辻由希）」『令和元年度 諸外国における政治分野への女性の参画に関する調査研究報告書』（内閣府男女共同参画局 委託事業、2020）

[https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/pdf/gaikou\\_research/2020/09.pdf](https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/pdf/gaikou_research/2020/09.pdf)

これらを考慮して、日本の状況について簡単に確認する。

・地域ごとに1議席のみを争う小選挙区制度では、すでに議席を獲得している男性議員が存在していると、候補者の交代が進みにくい。「政権交代」は候補者の交代を促すが、衆議院選挙において小選挙区比例代表並立制の日本では、「一強多弱」の議席構造を維持しがちであり、さらに「自公連立」「野党分裂」の状況では、候補者交代が大きくは進みにくい状況がある。

・他方で地方首長については、現職有利とされながらも、「挑戦者としての女性候補者」がフォーカスされることによる、副次的な影響も考えられる。

・一つの選挙区につき複数の議員を輩出する大選挙区制度では、出馬のハードルが相対的に低い側面がある。

・そうした中で、議会制民主主義に対して、「名乗り出る女性」の出現は重要である。そうした候補者が、「いけにえの子羊」として扱われず、完全に対等に支援され、潜在的なリーダー候補に「怖気付き」を与えず、ロールモデルとしての刺激を与えられるかは、市民セクターも含めた積極的な手続きが必要であると考えられる。

## RQ：リサーチクエスチョン

これら先行研究や日本の状況を踏まえ、以下のような問いを立てた。

- ・統一地方選挙に出馬した女性候補者は、いかなる制度課題・社会課題を体験したか
- ・今後、支援団体らは、いかなるサポートを拡充する必要があるのか
- ・これから出馬する候補者には、いかなる知見を共有する必要があるのか

この問いを明らかにするため、今回の調査を行うこととした。

## 調査設計

本調査は、選挙参加者に対して、事後的に体験を振り返ってもらうという回想形式のものとなる。選挙活動中に、感情記録などの持続調査を行うことも検討したが、選挙への候補者であるという特性上、解答負荷の高い手法は避けた。また、参加者の数が限られていること

もあり、量的な比較調査は妥当ではなく、経験的な知識を収集する質的な手法が適切であると考えられた、

そこで、以下の2通りの調査を行なった。

#### 調査Ⅰ：ワークショップーKJ法

模造紙およびオンラインドキュメントツール（Google ドキュメント）を活用した、グループ型「KJ法」を使用。「KJ法」の手続きは、次のようなもの。

- ① 21名の参加者を、3～4人のグループに分け、テーブルに着座。調査の意図と内容、目的について、事前のイントロダクションを行う。各テーブルには、模造紙、ペン、付箋を用意。
- ② 経験を通じて得た感情や課題などを、個々のカード（付箋）に書き出す。一つのカードには一つのアイデアを記録する。ウェブドキュメントの場合は、箇条書き形式で書き連ねる。
- ③ テーマに応じて書き出したカードを、次々と模造紙に貼っていく。その際、書き出す内容について制限は設けず、「質より量」を意識して書き出す。一つのテーマの記入時間は10-15分程度。
- ④ 各テーブルごとに、ディスカッションしながらグループ化する。そのうえで、グループ化されたカード群にタイトルをつける。グルーピングの時間は15-20分程度。
- ⑤ 各テーブルのディスカッションを経て、他のテーブルの参加者らとともに、共有（発表）の時間を設ける。

#### 調査Ⅱ：アンケートー質問紙

質問紙を作成し、アンケート用紙あるいはウェブフォーム入力方式で回答してもらう。

設問項目には、いくつかの基本属性に加え、「立候補した理由やきっかけ」「特に力を入れて取り組みたいと思っている分野」「選挙期間の間に、経験したネガティブな経験」「立候補を決める段階から選挙期間の間に感じた課題」などの項目と自由記述を設けた。

これらの調査項目は、内閣府男女共同参画局が委託して行われた調査「女性の政治参画への障壁などに関する調査研究報告書」を参照した。

[https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/pdf/seijisankaku\\_research\\_r02.pdf](https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/pdf/seijisankaku_research_r02.pdf)

## 調査Ⅰ：ワークショップ

ワークショップでは、A「立候補を決めるまで」、B「立候補を決めてから」の二つの時間軸を設定。A「立候補を決めるまで」では、①ポジティブな動機（したいと思ったこと、目的など）、②ネガティブな葛藤（悩んだこと、辛かったこと、ためらったことなど）、③嬉しかったサポート（助けられた声かけ、良かった反応など）、④不満だったサポート（足りなかった、嫌だった声かけ、欲しかった支援など）といった点について記入してもらった。

また、B「立候補を決めてから」においては、⑤ポジティブな体験・内面（嬉しかったこと、思いを強めたこと、強く手応えを感じたこと、成長を感じたことなど）、⑥ネガティブな体験・内面（悩んだこと、おかしいと思ったこと、なれなかったこと、辛かったことなど）、⑦助けられたサポート（声かけ、相談、ノウハウ、ケア、支援など）、⑧サポートへの不満（足りなかった、嫌だった、ありがた迷惑だった、欲しかった、期待はずれだったなど）といった点について記入してもらった。

記入されたテキスト量は、①～⑧の総計で、895枚のカード、26,153文字のテキストとなった。記入されたカードは、別表（電子ファイル）にて整理している。テーマごとのカード枚数は、次のような結果になっている。

### 【立候補決断前】

- ① ポジティブな動機（したいと思ったこと、目的など）…188
- ② ネガティブな葛藤（悩んだこと、辛かったこと、ためらったことなど）…133
- ③ 嬉しかったサポート（助けられた声かけ、良かった反応など）…102
- ④ 不満だったサポート（足りなかった、嫌だった声かけ、欲しかった支援など）…75

### 【立候補決断後】

- ⑤ ポジティブな体験・内面（嬉しかったこと、成長を感じたことなど）…119
- ⑥ ネガティブな体験・内面（悩んだこと、おかしいと思ったことなど）…116
- ⑦ 助けられたサポート（声かけ、相談、ノウハウ、ケア、支援など）…110
- ⑧ サポートへの不満（足りなかった、嫌だった、ありがた迷惑だったなど）…52

テキスト数に注目すると、全体的な傾向として、多くの参加者は、ネガティブな葛藤、サポート不満など以上に、ポジティブな体験やサポート満足を報告していた。以下、具体的な内容を分析していく。

## 記述内容の分析——グルーピング

まず、参加者によるグルーピングを概観していく。グルーピングは、参加者が記入カードを並び替え、その後にネーミングを行ってもらった。以下は、ネーミングされたグループの

一覧である。

- ① ポジティブな動機（したいと思ったこと、目的など）  
「エンパワ系」「ヴィジョン系」「政治を身近に」「教育・子ども」「住むところへの貢献」  
「個人の尊重」「誇れるまちづくり」「運命」「楽しい選挙」「もやもや」「多様性」「活性化」  
「社会のあり方」「ママ系」「キャリア」「しがらみ」「働く環境」「若者・女性の政治参加」  
「弱い立場」「好奇心」「投票したい人がいなかった」「地元」「問題意識」「未来」  
「当事者」「声を届けたい」「周囲の応援」
- ② ネガティブな葛藤（悩んだこと、辛かったこと、ためらったことなど）  
「資金」「地盤・仲間」「不安・焦り」「プライバシー」「スキル・戦略」「人生変わっちゃう」  
「できるか不安」「テクニク的な不安」「応援してもらえない」「攻撃される」「自分のメンタル」  
「ボランティア」「キャリア」「自分の生活」「個人情報」「政治家像」「仕事との両立」  
「応援しない、できない系コメント」「周りの環境」
- ③ 嬉しかったサポート（助けられた声かけ、良かった反応など）  
「良条件」「自分への自信を高めてくれた」「出会い」「からだを大事にね」「大賛成」「サポートの声かけ」  
「やったらいいじゃん」「他の人の相談」「友人」「家族」「議員・政党」  
「ポジティブに応援」「お金のサポート」「自分と向き合う」「横のつながり」
- ④ 不満だったサポート（足りなかった、嫌だった声かけ、欲しかった支援など）  
「友人・知人の塩対応」「夫と家族のネガティブな反応」「他の人の言葉」「学び（の場の不足）」  
「金銭面」「友人・家族」「職場」「情報」「議員・政党」「既存のやり方」「ノウハウ」  
「チーム作り」「マンスプ」

#### 【立候補決断後】

- ⑤ ポジティブな体験・内面（嬉しかったこと、成長を感じたことなど）  
「嬉しい周りの反応」「自分が得たもの」「嬉しい応援の声」「演説して成長」「出会い」  
「具体的な手伝い」「支援者が楽しそう」「政治が身近に」「友人たちからの協力」「応援の声かけ」  
「ボランティア」「選挙に興味をもってもらえた」「潜在的に同じ思いを持っている人の発掘、出会えた感」  
「応援、予想外でポジティブなことも！」
- ⑥ ネガティブな体験・内面（悩んだこと、おかしいと思ったことなど）  
「ハラスメント」「辛かったこと」「外野の問題」「メンタル削り」「」「体力的な問題」  
「公選法」「演説」「SNS」「街頭宣伝の仕方」「キモい系」「言われたこと」「資源不足」  
「党の色がつくこと」「古い選挙像」「自分らしい新しい選挙をしたいのにできない葛藤」



- ⑦ 助けられたサポート（声かけ、相談、ノウハウ、ケア、支援など）  
「嬉しかったサポート」「家族のサポート」「仲間のサポート」「候補者のペース」「SNSのサポート」「支援者さんからのサポート」「ごはん」「カンパ」「理解者」「差し入れ」「手伝い」「FIFTYS」「地域の人々の目線の変化」「政党の支援」「家族・チームの助け」「キーパーソン」「職場のサポート」「ノウハウ」
- ⑧ サポートへの不満（足りなかった、嫌だった、ありがた迷惑だったなど）  
「善意の辛さ」「空気読んで系」「ちょっと困る差し入れ」「余計なアドバイス」「現実」「言葉だけ」「時間との戦い」「政党と支援者」「SNS」「ボランティア募集」「時間取られる」「ありがた迷惑」「余計なお世話」「制度を変えないと」「マンズプおじさん」「主体的に動いてもらうって難しいよねゾーン」「マンパワー」「選管/書類などの課題」

#### 記述内容の分析——共起ネットワークとトップワード

前のチャプターでは、参加者による主観分類に基づいて分析した。このチャプターでは、テキスト分析を行うことで、違った角度からの知見獲得を試みる。

ここでは、①～⑧のテーマごとにカード分析を行い、それぞれ(1)頻出語上位 50 件と、(2)共起ネットワークを示していく。

※分析にあたっては KH Coder を用い、形態素解析には「Mecab」を採用した。

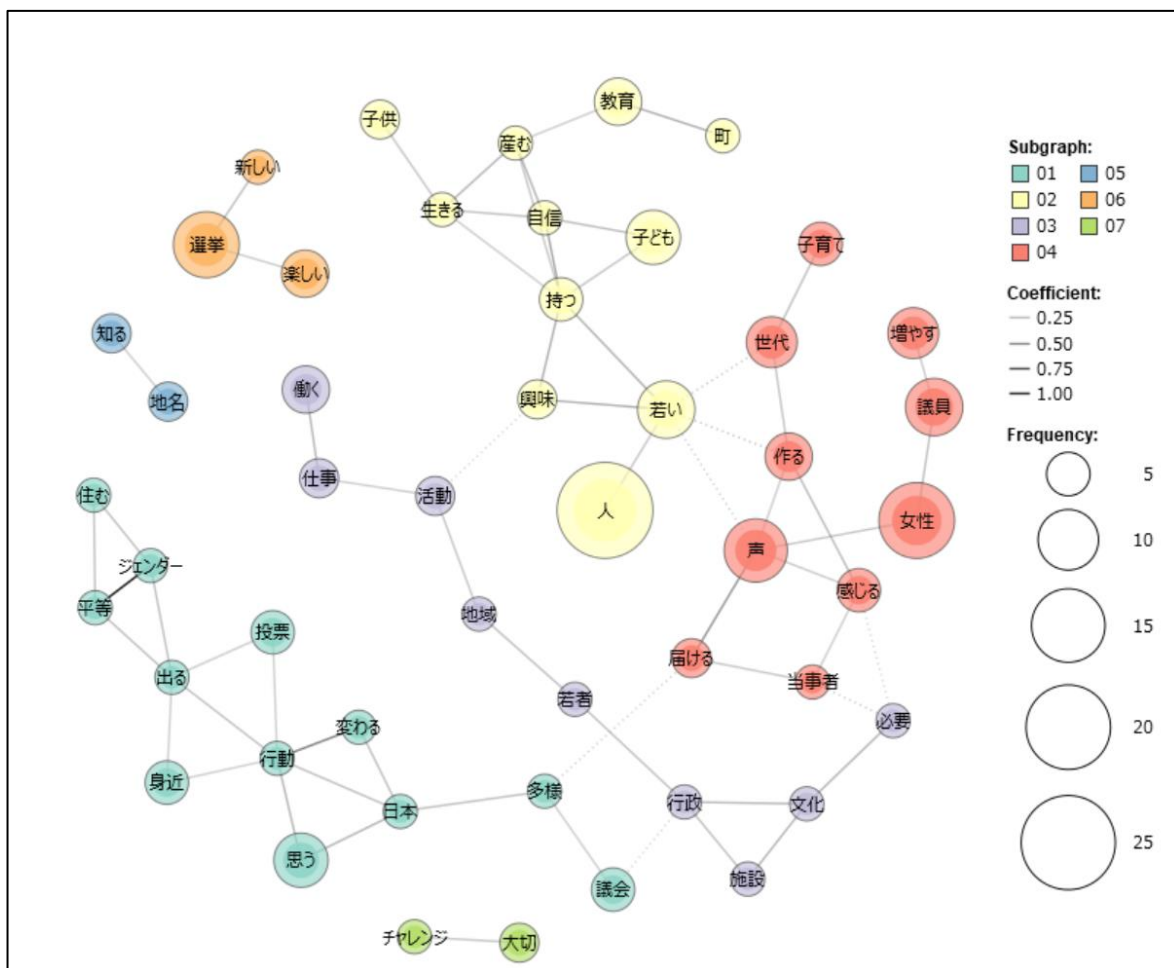
※(1)の頻出語彙については、別表を参照。

【立候補決断前】

① ポジティブな動機（したいと思ったこと、目的など）

頻出ワードとしては、「政治」「人」「社会」といった動機ワードに加え、「女性」「若い」「子ども」「世代」「子育て」といった、当事者性や政策ターゲットに関する語彙が、上位で目立った。

共起ネットワーク分析では、「人」「選挙」「女性」などのワードを基軸にクラスターが成立していた。女性議員を増やすことで、教育や育児関連の政策に力をいれること。若い人の声を届けることで、対人への支援を拡充すること。新たな政治の形を作ることで、多様かつジェンダー平等な社会へと変えること。こうした語彙群が特徴として現れた。



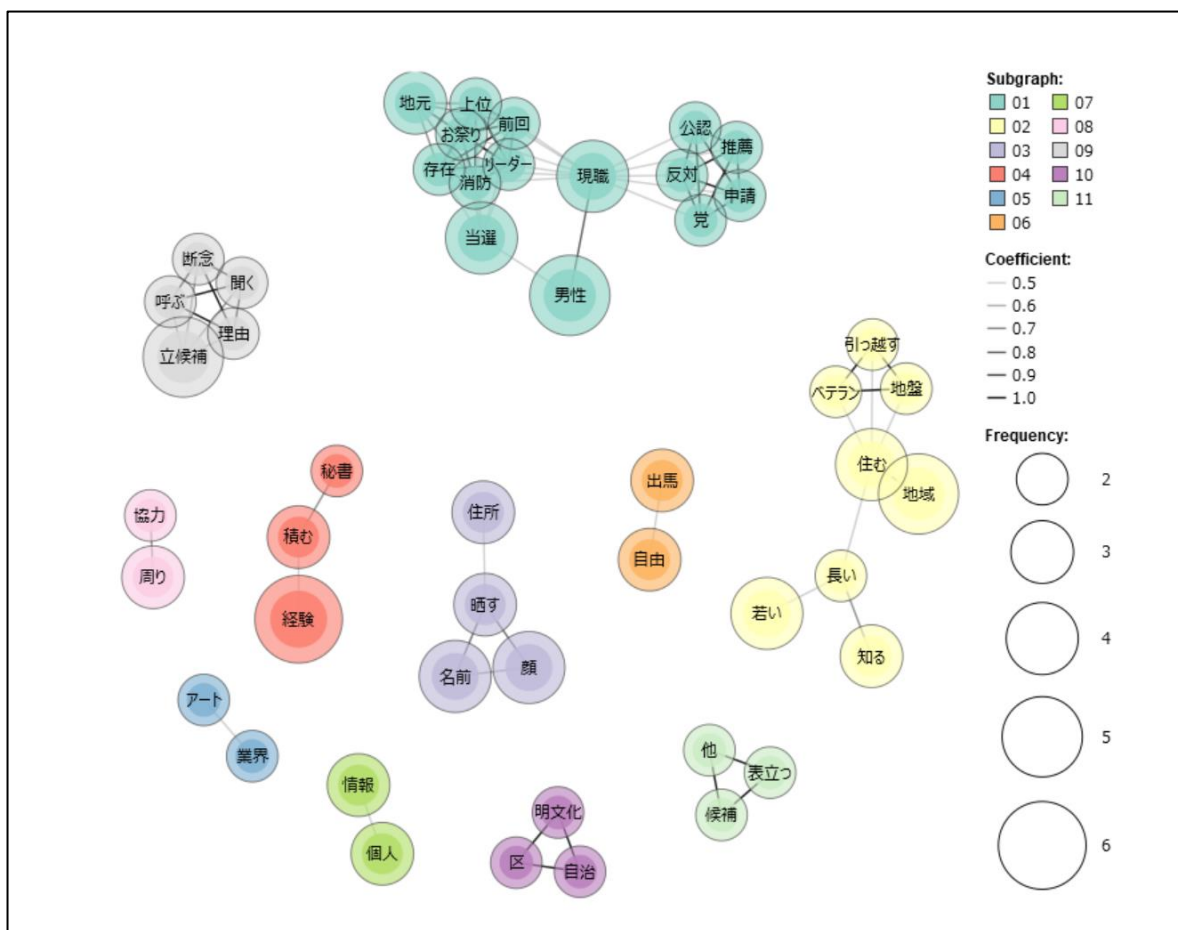
カード例

「立候補してチャレンジする姿を女の子たちに見せる」「政治家って楽しそう」「私が政治を変える！」「女性が議会に増えて欲しい」「政治家を一つの職業に思える社会にしたい」「ヘイトスピーチを許したくない」「病児保育の充実」「差別のない世の中へ」「国際性を生かせそう」「自営業、フリーランスの不安定さを軽減したい」「政治家の秘書などを経なくても政治家になれる道があることを示したかった」「同年代（特に子育てをしている世代）の投票率を上げたい」「私が出馬したらインパクトあるかも」「当事者が政治の現場にいることの必要性を感じたから」「子育て中の女性も市議に（政治に）」「出産、子育て、教育をもっとしやすい安心できる社会へ」「ジェンダー平等な社会がほしい」「政治に若い人が興味をもてるような活動を！」「政治を身近に学校給食の無償化を実現する」「8時間会社で働くより、自分でいろいろ決めて仕事したい」「ヘイトスピーチを許したくない」「病児保育の充実」「差別のない世の中へ」「国際性を活かそう」「自営業、フリーランスの不安定さを軽減したい」「政治家の秘書などを経なくても政治家になれる道があることを示したかった」「同年代（特に子育てをしている世代）の投票率を上げたい」「私が出馬したらインパクトあるかも」「当事者が政治の現場にいることの必要性を感じたから」……

② ネガティブな葛藤（悩んだこと、辛かったこと、ためらったことなど）

頻出ワードとしては、「不安」「応援」「仕事」「お金」といったワードに加え、「男性」「晒す」「若い」といったワードが特徴的であった。心理的不安、道具的不安のみならず、男性ジェンダー化されてきた政治空間への躊躇や、出馬に伴うリスクなどへの懸念が見て取れる。

共起ネットワーク分析では、「男性」「現職」を基軸にしたクラスターのほか、地域定着や、プライバシーリスクへの懸念を示すクラスターが現れていた。



カード例

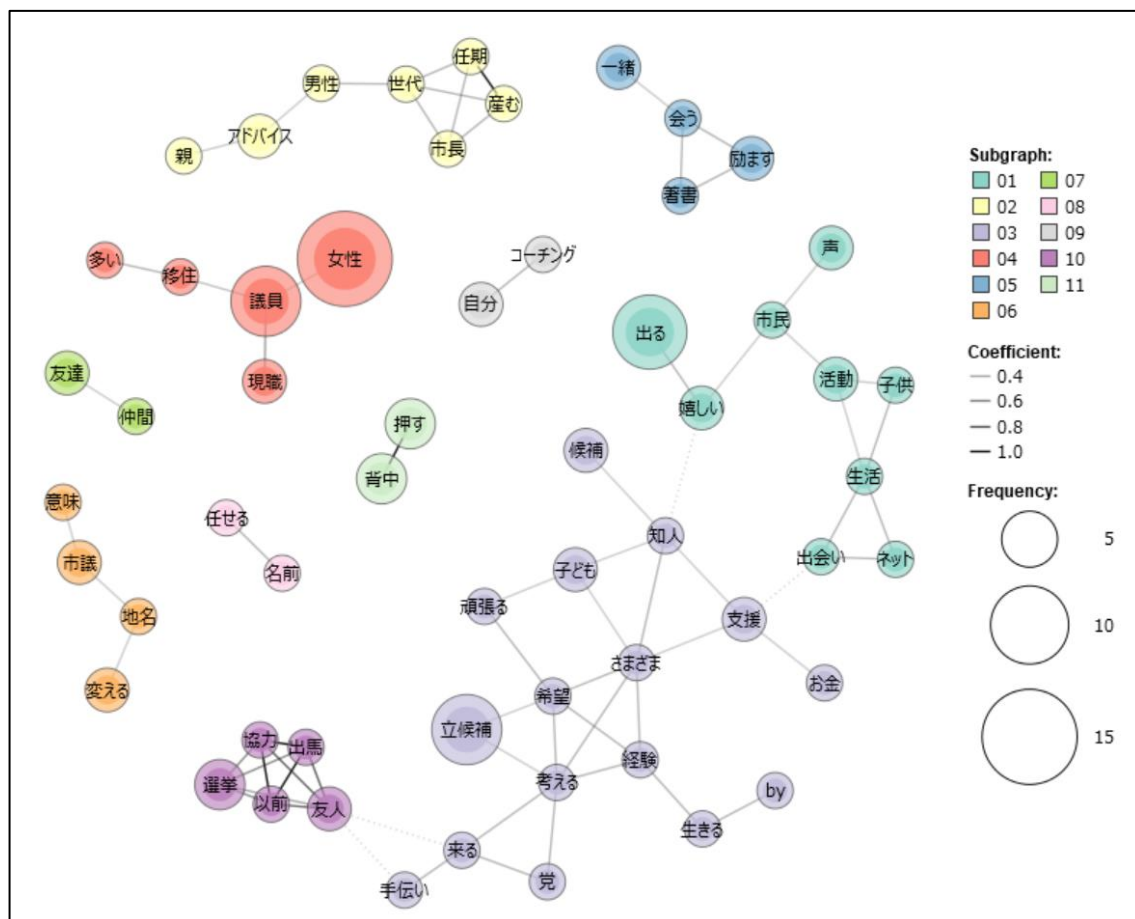
「お金ない！非正規だし…」 「(地域名) 1年ちょいのワイでいいのか？」 「仲間がいない (コ

ミュ障オタ)」「落選したら何しよう…?」「いじめられる? 白い目で見られる?」「顔も名前も連絡先も晒すの怖い!」「親バレどうしよう?」「私でいいのかな」「政策ってどうやってつくるん…?」「子どもを産むのは先送り?」「会社辞めてライフプランが変わる」「結婚しにくくなりそう」「個別訪問できるかな」「毎日の駅頭など体力に不安」「たくさん勉強しないと」「セクハラ・票ハラの被害にあうかも」「アンチがわくよね (わいた)」「顔、名前、住所、TEL が晒される」「夫婦仲が悪くなるかな?」「子どもがいじめられる?」「ボランティアがない」「選挙と仕事の両立できるか」「政治的思想・主張を全ての人に知られる不安」「カミングアウト (LGBTQ であるということ)」「選挙ってイメージよくない」「夕飯までに帰ってこれなかったらみんなのごはんどーする」「前職 (夜の仕事やメイド) の時のお客様に見つかる不安」「ストーカーだった人に見つかる不安」「自分の生き立ちとかも関わるので、家族 (夫以外) が傷ついたりしないか」「保育士不足なのに仕事を辞めるのはどうなんだ…」「人権侵害されるかも…」「途中で病んだりしないかなあ…」……

③ 嬉しかったサポート（助けられた声かけ、良かった反応など）

頻出ワードとしては、「女性」「応援」「若い」といったワードに加え、「FIFTYS」の文言が目立った。男性ジェンダー化されてきた政治空間への躊躇を抱いていたところに、むしろ積極的に応援・サポートするとの反応があったことや、団体としてサポートする「FIFTYS」の存在が、相応のエンパワーメントになっていたことが伺える。

共起ネットワーク分析では、「女性」「出る」「立候補」などのワードを基軸としたクラスターが見て取れた。女性立候補者であることへのポジティブな反応と、出馬意欲に対するサポート提案などがみられたことは、出馬意欲を向上させるだけでなく、それ自体が有意義なものあるとの示唆が得られる。



カード例

「0円で選挙に出れる」「<地名>のメルケルって言うてもらえた」「すごい面白い人がきた

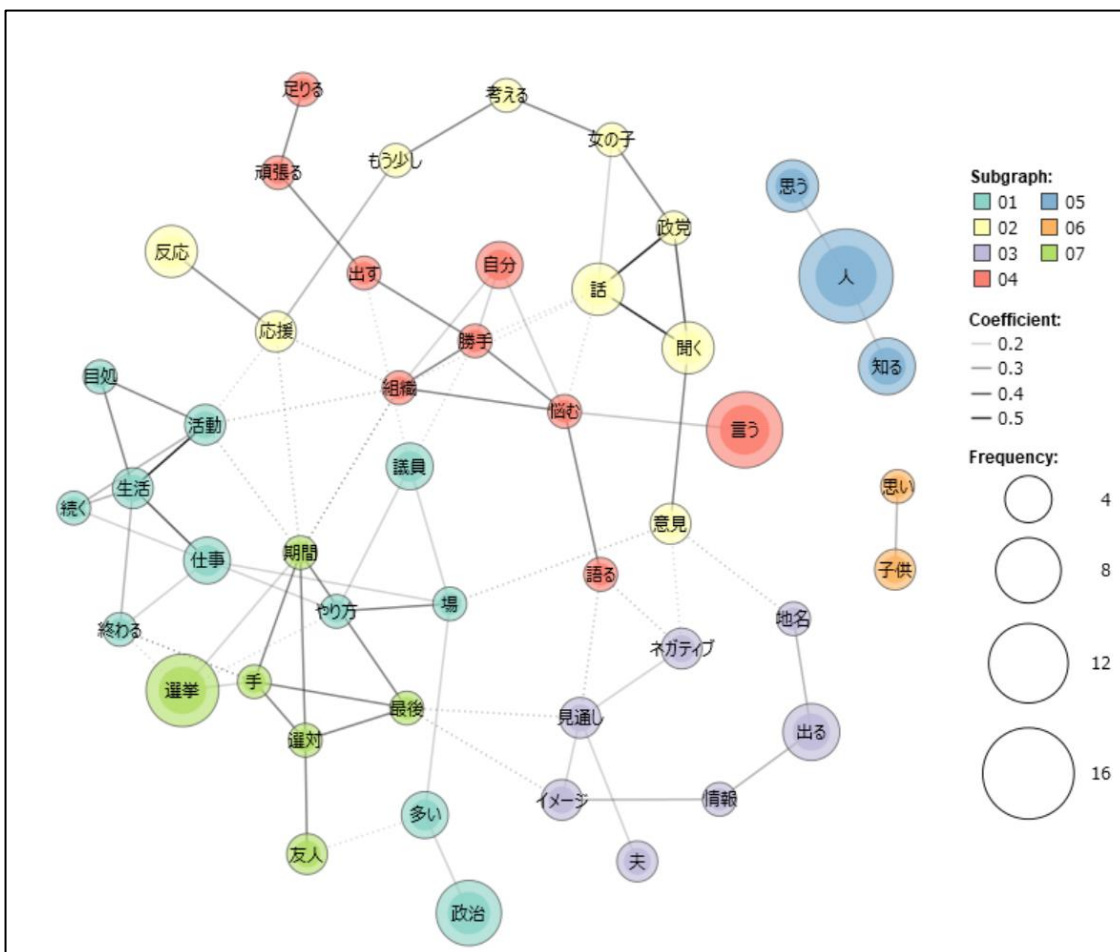
(と言われた)「能條桃子さんや福田和子さん、山本和奈さんら若い女性が社会をマジで変えようって戦ってる・アイデアバンバン出してる姿」「家族、夫に、できる限りのサポートをしてくれると言ってもらえた」「子供とあそんでくれたりあずかってくれたり」「地元の人たちがとても応援してくれた」「やってみたらいいじゃん」「ええやん！と夫が即答」「やろうと思うことはやったらいいと姑が即答」「夫が、いいと思うと言ってくれた」「FIFTYS の存在」「応援したい候補者が初めてできた」「できる限り手伝うから言ってね」「お金はどうにかなる (パートナー)」「ご飯作るよ」「議員の仕事楽しいよ！ (他自治体・現職・女性)」「私は任期中に産んだよ～！ (と言われた。3人)」「全力でサポートします。なんでも相談して (市長)」「ママ友の反応が意外によかった」「親が学術的な面でアドバイスをくれた」「親にそこそこ地盤があった」「友達がコネクション使わせてくれて輪が広がった」「夫が超強力的」「「なぜ君」とか「選挙」とかの静画は、落ちたとしても、チャレンジした意味はあると思わせてくれた」「杉並区岸本聡子さんの当選や、著書にエンパワーされた」「職場との仲間や友達が応援してくれた」「党派の違う現職議員から、「待ってるよー。一緒に変えよう」と言ってもらった」「女性たちのほとんどが、出ることに肯定的で、励ましてくれていた」「FIFTYS に参加されているみなさん一人ひとりがロールモデル」……

④ 不満だったサポート（足りなかった、嫌だった声かけ、欲しかった支援など）

頻出ワードとしては、「人」「言う」「反応」「ネガティブ」といった文言がみられた。また、「政治」「議員」などの文言も目立った。

自由記述を見ると、周囲からネガティブな反応を経験することに加え、「政治は男性のもの」というイメージが、社会に浸透していることへの躊躇が見て取れた。一つは、候補者自身が内面化していることによる躊躇であり、もう一つは、社会の側から、「女性なのに出馬するのか」といった反応があることへの抵抗であった。後者については、「子供がいるのに」といった役割意識からの反応や、パートナーである夫からの芳しくない反応などがあつた。

共起ネットワークでは、議員へのネガティブイメージや、選挙の見通しがイメージしにくいこと、そして自分自身の仕事や今後の生活への影響への不安などがリンクしあっている様子が見て取れた。





**カード例**

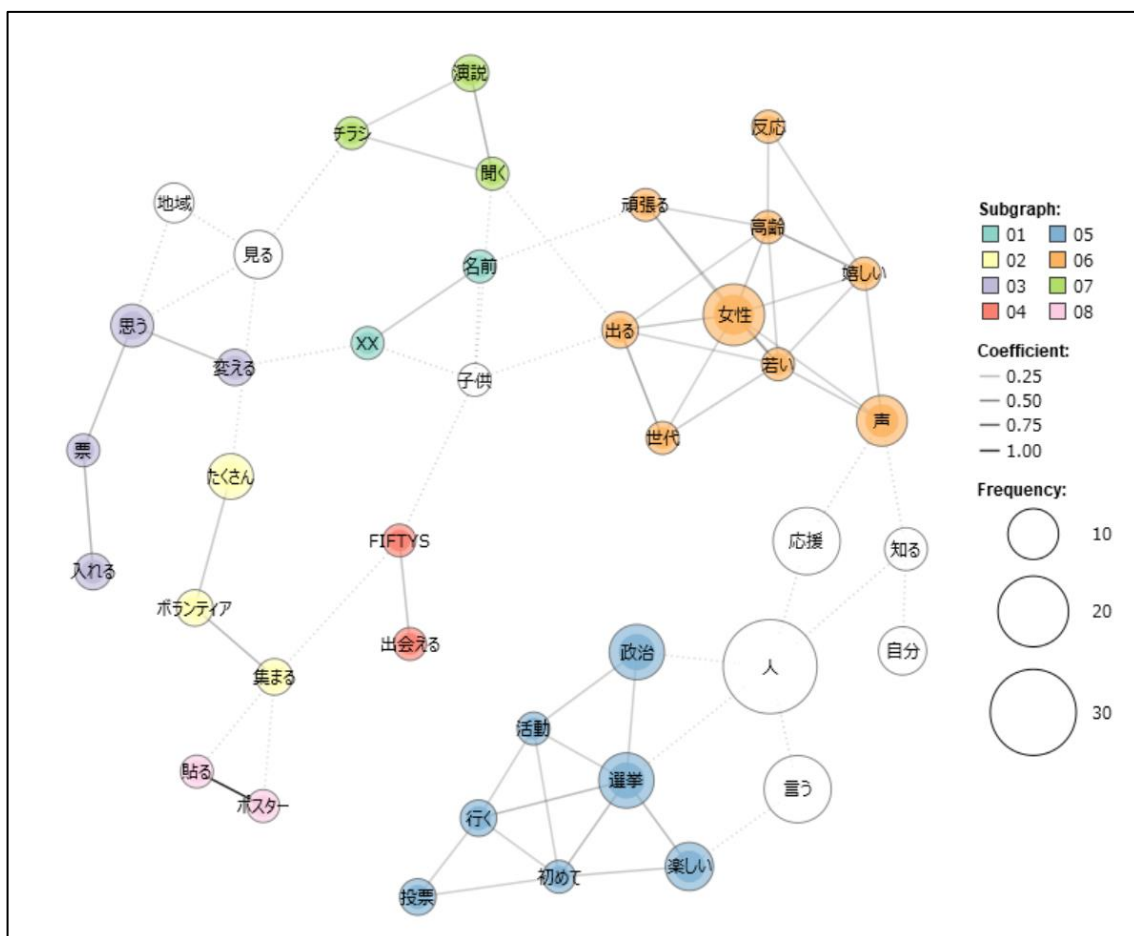
「かわいい女の子、政治のこと考えられるんだね」「みんなに平たく意見を聞いている場で、政治に一家言ある人ばかりが多く発言するお話会。ヒエラルキーに無自覚。「夫の不機嫌」「夫の家事、子育て協力の理解見通しのなさ」「何であなたが?! みたいな反応」「祖父母からネガティブな意見」「子供がまだ小さいのに。かわいそう。さびしがるんじゃない?」「もう少し年を取ってから考えたら?」「仕事との両立で副業の申請が通らないかも」「職場『来年でたら?』」「朝、駅に立てるの? 定置定点で見つけてもらえないと」「政党職員の方が私のキャリアや経験も聞かず『何も知らない若い女の子』として話はじめた。知ってる話しかなかった」「勝手に「この子出すから」と現職議員に紹介された」「政治とか選挙とか話すとひかれる」「母親に反対された」「女性の地位向上って言っちゃダメ」「子供がかわいそう、寂しい思いをさせないで」「『政治』 = 『権力』という反応」「手放しで応援するよりも、奇人を見るような反応が多かった」「SNS などで知らない人から来るメッセージ」「新しくない選挙の方法」「"自分がやった方が早かった"サポート」「子供のせいにしないで (自分からは言わないで)」「マンスプ。悩んでいるって言うただけなのに「政治とは」を語られる」「お礼ができない? (法的なところと礼儀の狭間)」……

【立候補決断後】

⑤ ポジティブな体験・内面（嬉しかったこと、成長を感じたことなど）

頻出ワードで見ると、「人」「応援」「女性」「政治」「友人」といったキーワードが多かった。共起ネットワークや自由記述で見ても、肯定的なりアクションに多く触れることに対する評価が高いことがわかる。また、女性候補者であることについての肯定的な言及や応援もまた、好意的なフィードバックであると受け止める向きがあった。

女性ステレオタイプを刺激することで否定する声かけとは異なり、肯定的言及は、候補者の出馬意義を補強するだけでなく、有権者の声の代表性を確認する行為にもなっていた。好意的セクシズムやトークニズムとは異なる、積極的な代表性の獲得や、ロールモデルとしての自覚といったイベントは、当事者にとって「成長」「手応え」とも感じられていた。



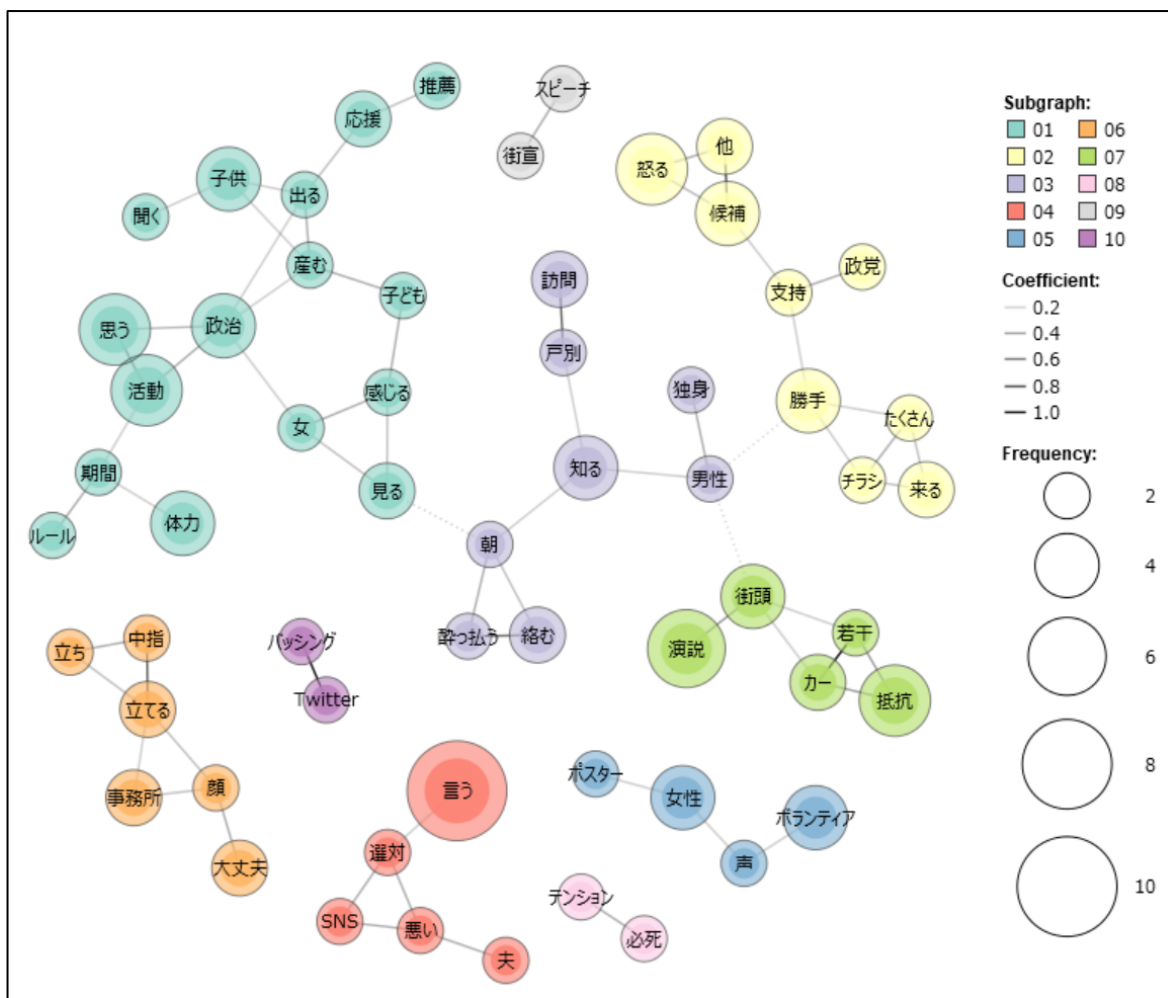
### カード例

「選挙や政治活動に初めて関わる人たちが『楽しい!』『もっと早くやればよかった!』と言ってくれたこと」「外国籍の人、障がいのある人、性的マイノリティの人たちからの『応援します』『女性、若者が増えて欲しいから頑張る!』『選挙楽しいね!』って帰ってくれたチームスタッフ』『地域の方々からのチラシ見たよ!応援してるよ!の言葉』『FIFTYSを通じて20-30代の女性たちが集まってくれたこと(感無量のコミュ障オタ)』『演説を真剣に聞いてくれた』『地域の方がいきなりボランティアをしてくれた』『すごく嫌なキャンペーンがあった時にツライ自分にあえて応援するように動き始めてくれた友人』『選挙を楽しんでくれた友人たち』『自分のことをもっと好きになれた』『『票入れるから』という人に会ったこと』『テレビを見てメッセージをくれた人がたくさんいた』『小学生が名前を呼んでくれた』『これから仲間になれそうな人が見つかった』『他世代の支援者がどんどん増えていった』『はじめてのボランティアというひとがたくさん』『ベランダに出てきて『応援してるよー!』と声かけ』『『あなたに入れてきたよ』と声をかけてくれる』『ポスターを外向けに貼ってくれた(個室)』『久しぶりに選挙に行った』『選挙に初めて行ったよ』『ボランティアが集まってくれたとき』『ポスター貼りの人員が集まってくれた時』『気にかけてくれる、応援してくれる人がけっこういたこと。』『私が何かを少しでも変えられたって思えることがあった』『私が手をあげるだけでも、20代女性移住者初の立候補という新しい道標ができた』『古い慣習やマンスプおじさんを見て、やっぱり変えなきゃって強く思った』『後悔しない選択ができた自分に拍手』『思ったよりも票がいただけなのがびっくり』

### ⑥ ネガティブな体験・内面(悩んだこと、おかしいと思ったことなど)

上位ワードには、「選挙」「言う」「抵抗」「怒る」「ボランティア」といったキーワードが並ぶ。特長的なのは、「マンスプ」「絡む」「Twitter」といった、他者からの攻撃と受け止められるワードが少なからず並んだ点である。

自分の満足できる選挙スタイルが貫けないこと。街頭演説やスピーチの難しさ。ボランティアなどとのコミュニケーションの不備。オンライン・オフラインでの、嫌がらせや不快体験。こうした経験が、候補者にとってのストレス要因となっていることが見て取れる。



カード例

「24時間選挙のこと考えないといけないの?」「長時間労働!(選挙期間も週休2日にしてほしい:ルール化)」「子供がかわいそう」「『○○問題について知ってる?』ってマウント&マンスプ!!」「『子供はいるの?』『旦那さんはいるの?』とすぐ聞かれる(だったらなんだ)」「SNSでの誹謗中傷」「街頭で知らない男性にツーショット勝手に撮られる」「駅立ち中に中指立てられる」「酔っ払いに絡まれた」「サポートチームのグループLINEのレスポンスなし」「完全ボランティアで集まった人たちをマネジする大変さ」「理想の選挙とのギャップ」「演説が下手すぎる自分」「誰かにポスターを剥がされたこと(複数回)」「見た目のことを言われる」「名刺を渡した時「デートしたい時に電話していい?」と聞かれた」「女として見られていると感じる反応に気持ちがわるくなったこと」「見た目のことを言われる」「夫がおもったよりつかえないこと」「ややこしすぎる公選法」「体力的に疲れる」「Twitterでのバッシング」「早起き」「早朝からの場所取り」「(迷惑系 youtuber)に絡まれた」「女性のポスターは貼りたいくない」「家族からの批判」「『うちにあいさつ来るの遅すぎる』『うるせーっ』

中指立てる人」「夫から"機嫌が悪すぎる"と怒られた」「選挙戦最終日にボランティアさん集団が逃げた」「『若い女性でいいね』というおじさんからの声がけ」「政党職員からのセクハラ」「勝手に事務所運営をされる」「当事者同士が大争いになって会議が紛糾」「選挙カーにも若干の抵抗」「がっつりドブ板選挙をやってしまった」……

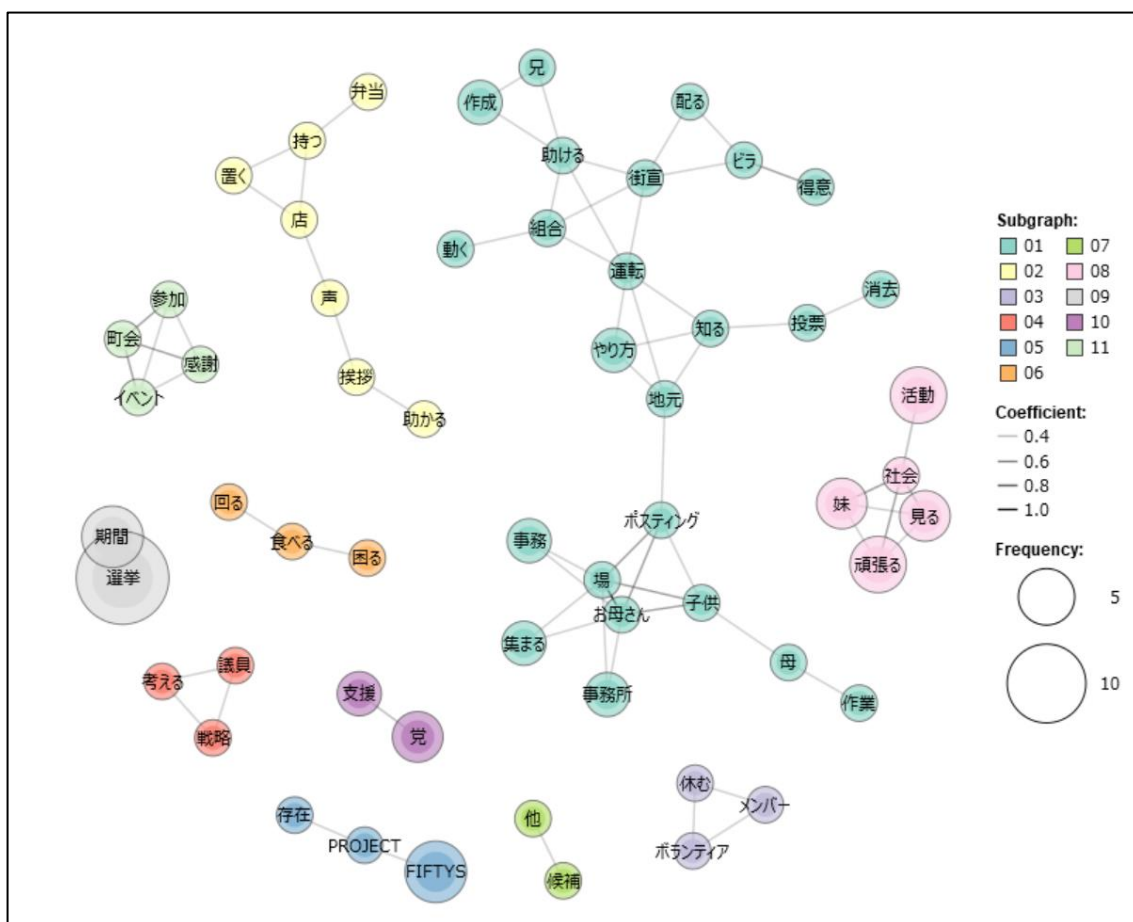
⑦ 助けられたサポート（声かけ、相談、ノウハウ、ケア、支援など）

頻出ワードとしては、「人」「選挙」「サポート」といった文言がみられた。また、ここでも「FIFTYS」の文言が上位に登った。

人からの紹介でネットワークが広がること、友人、家族、有権者などからポジティブな反応が得られたこと。支援者の継続的なサポートや役割分担など、多くのファクターが満足要因となっていることが見て取れる。

共起ネットワークで見ても、「FIFTYS」のクラスターは独立して機能していた。また、ピラ配りや運転、ポスティングや育児のサポートなど、幅広いサポートに対して満足していた。

選挙運動は、相当に幅広いサポートが求められる活動でもある。また、候補者にとっても、心身ともにエネルギーを消費する期間でもあるため、各種応援はもちろんのこと、食事の提供や適切な休憩時間の確保などが重要であったとの声も多数見られた。



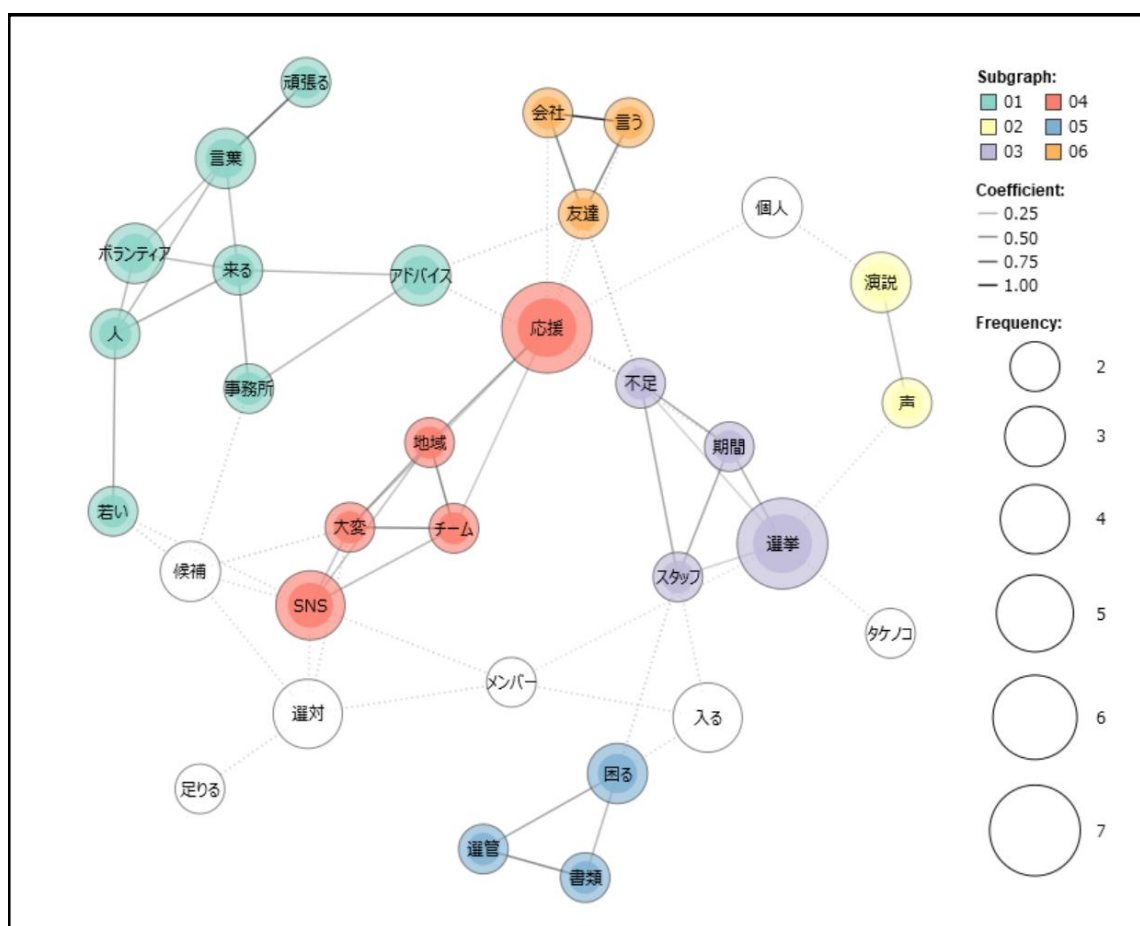
**カード例**

「実母の選挙期間中のサポート」「妹や兄が応援に来てくれた」「父のサポート」「夫が会計関係をすべて担当」「夫がスケジュール管理・収支報告をやってくれた」「おじさんたちをまとめてくれるおじさん」「ママ友たちが自分ごととして頑張ってくれた」「出陣式に来てくれた人のスピーチ」「応援メッセージを送ってもらった」「リーフ作成、はがき作成を妹がやってくれた」「大家さん、お弁当屋さん、ポスター制作会社などの応援ムード」「『無理しすぎない』楽しめる選挙を周りも目指してくれた」「つかれたーって言うても『そりゃそう、休んで！』と言ってくれるチームメンバーとボランティア」「インスタライブ出演してくれた友達」「他の陣営のスタッフのサポート」「他の候補者とのコラボ」「経験者からのアドバイス」「パートナーが1週間ごはんと犬の散歩担当してくれた」「事務所に友人が花を届けてくれた」「おせんべいの差し入れ」「事務メンバーの不和を会長が調整してくれた」「FIFTYSでの勉強会」「党からのスケジュール的、ノウハウ的支援」「党からの金銭的な支援」「党のいざこざについて、皆が私の意見に賛同してフォローしてくれた」「女性一人にならないよう、組合の人がいつも一緒に動いてくれた」「家族（夫）には大感謝」「選挙期間中に夫が仕事を休んでくれた」「仕事を最初は退職するつもりでいたが、籍を置いたまま活動していいと言ってもらえた」……

⑧ サポートへの不満（足りなかった、嫌だった、ありがた迷惑だったなど）

「応援」「SNS」「アドバイス」といった文言が、頻出ワードの上位にあった。応援すると言われたにもかかわらず、友人や周囲から、期待したほどのサポートを得られなかったこと。SNS 運用に慣れたスタッフが少なく、自分で運用しなくてはならなかったこと。不必要なアドバイスは受ける一方で、必要なアドバイスが受けられなかったことなど、情報サポートのアンバランスさが指摘されている。

選挙の際には、チームづくりが不可欠となるが、チームメンバーにとって心理的な負担にならないコミュニティを作れるかどうかは、候補者にとってもボランティアにとっても、大きな課題となる。票を獲得する手段やアピール手段のみならず、選挙事務所運営のノウハウや困りごとなどについても、知見が求められていると言える。



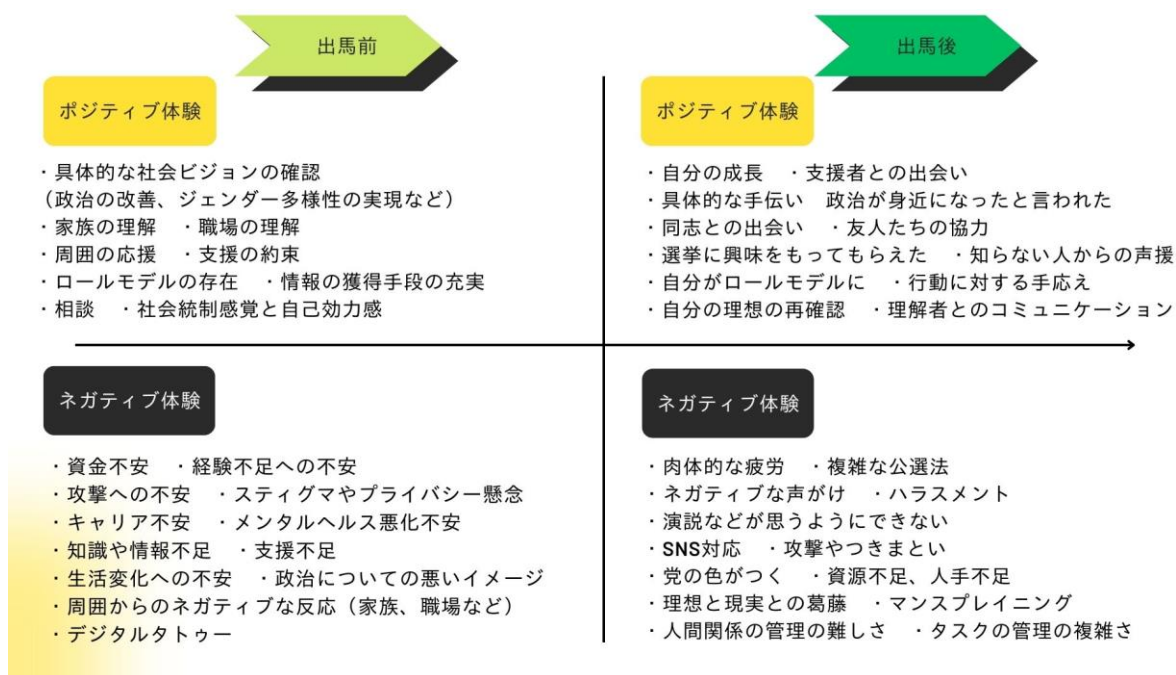
カード例



「SNS ができない（ネットリテラシーが低い）選対メンバー」「業務委託先の最大の配慮と応援」「私が声かけないとサポーターが動いてくれない。あくまで『参加者』で主体的じゃない」「タケノコの差し入れ。選挙最終日だったからどうにか翌日ゆがけた」「選挙期間の応援メールのラリーが続く」「お金を支払えないのでボランティアの方々への対応」「候補者が選対リーダーも兼ねる大変さ」「若い人が集まらなかった」「選挙公報が出来上がるのがギリギリだった」「自民党の衆議院議員からの為書きオファー」「票読みをしろ、後援会長をたてろ、などの助言」「『頑張って』の言葉だけ」「保育体制まで考えず土日の活動が最後は沢山入った」「手作りのおやつ食べられないからもらうと困る」「つきまといへの対策」「SNS は候補者任せ（若いからできるでしょ）」「言葉だけで実際にボランティアに来てくれる人は少なかった」「政党からの支援は資金面のみで、手伝いはほとんどなかった」「生活の不安を取り除く仕組みが欲しいと思った」「感謝が足りない！と怒られた」「おじさんからのアドバイスが嫌だった（マンスプ）」「選対の子達も素人で、当事者意識が足りない部分が悩んだ」「絡まれて困っている時に、一緒にいたスタッフが間に入ってくれず、のんびり見守られてた」「立候補説明会が現職を想定していて、新人には分かりにくすぎる」「書類の書き方など教えてほしかった」「わかりにくい書類。小さな町なので選管サイドも人事などの都合ですごく困っているというのがわかったこと。なんだ選管もわからなかったのかい！」……

### 記述内容の分析——タイムラインと体験群

候補者は、出馬前と出馬後について、どのような体験を記述していたか。タイムラインを二分割しつつ、ポジティブな体験とネガティブな体験に区分けし、参加者のグルーピングをプロットした。



出馬経験者は出馬前から、高い社会ビジョンを共有し、周囲の支援なども得られているものの、不安要素も少なくない。大きくは、無理解や攻撃、非共感や蔑みなどの「情緒的側面」、資金や人手などの「道具的側面」において、多くの葛藤を経験している。

選挙活動は、肉体的にも精神的にも、多くのエネルギーを必要とする。活動を持続するためには、実際的な葛藤に対応する、道具的サポート、情緒的サポートが必要となる。

また、多くの出馬経験者が、出馬に伴う、将来的な不安を経験している。出馬することにより、どういう経験をするようになるのか。適切なサポートを得られるのか。ネガティブな体験をしないか。自分の人生やキャリア、社会関係に悪影響を与えないか。こうした葛藤について、将来の不確実性について、透明性を確保しうるような情動的サポートが必要になってくる。

### 記述内容の分析——サポートタイプと満足／不満

ソーシャルサポートは大きく、「道具的サポート」と「情緒的サポート」に分類される。「道具的サポート」は、問題を解決するために必要な資源を提供したり、資源を手に入れる

ことができるような情報を与えるような支援を指す。一方、「情緒的サポート」とは、心理的な支えになるような、情緒面への働きかけを指す。

この2つのサポート類型に加えて、「所属的サポート」「評価的サポート」「情動的サポート」などを列挙する研究も存在する。ただしここでは、道具的／情緒的サポートの満足／不満足の種類に基づき、問いを立てた。

<p><b>情緒的サポート 満足</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自信を高めてくれた</li> <li>・ からだを大事にと言ってくれた</li> <li>・ 意見を尊重してもらえた</li> <li>・ サポートの声かけ</li> <li>・ 人を紹介してもらえた</li> <li>・ 友人や家族が理解してくれた</li> <li>・ 先輩議員のアドバイス</li> <li>・ さまざまな人からの応援</li> <li>・ 先輩政治家のポジティブな声かけ</li> <li>・ 意見への理解者</li> <li>・ 境遇を共にする仲間とのやりとり</li> <li>・ 地域の人の目線の変化</li> </ul>	<p><b>道具的サポート 満足</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族のサポート（家事など）</li> <li>・ 事務や経理</li> <li>・ 仲間のサポート</li> <li>・ 休憩時間の確保</li> <li>・ SNSのサポート</li> <li>・ 食事の提供</li> <li>・ カンパ</li> <li>・ 差し入れ</li> <li>・ 政党からの情報提供</li> <li>・ 職場のサポート（副業や休暇など）</li> <li>・ 先輩政治家などによるノウハウの提供</li> </ul>
<p><b>情緒的サポート 不満</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友人、知人の塩対応</li> <li>・ ボランティアに注意できない</li> <li>・ 夫や家族のネガティブな反応</li> <li>・ 職場のネガティブな反応</li> <li>・ 政党や議員などからの勧誘や押し付け</li> <li>・ 「あなたにできるの？」といった否定</li> <li>・ 相談体制の不足</li> <li>・ 余計な助言</li> </ul>	<p><b>道具的サポート 不満</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 煩雑な書類に対する情報不足</li> <li>・ ボランティア不足</li> <li>・ 自主的に動かないボランティア</li> <li>・ 迷惑な差し入れ</li> <li>・ SNS運用知識の欠如</li> <li>・ 迷惑な声かけに対して防衛してくれない</li> <li>・ 家事などをしてくれない家族</li> <li>・ 休憩時間のなさ、時間との戦い</li> <li>・ 選挙全般に関する情報不足</li> <li>・ 役に立たないマンズブ</li> </ul>

情緒的サポートにおいては、出馬経験者に限った問題ではないが、周囲の共感的レスポンスの有無が大きな意味を持つ。友人・知人・職場などにおいて受けた反応は、それが好意的なものであれ、否定的なものであれ、候補者に大きな影響を与えていることが示唆される。

道具的サポートについては、出馬前のタイミングから、そもそもどのようなサポート・レポートが存在するのかが不透明であったという声が多くあった。そうしたことを考えれば、道具的サポートのレポートを可視化し、必要な問い合わせに適切に応じられるようなタイプの情動的サポートの役割が重要であると言えるだろう。

### FIFTYS PROJECT への評価と課題

自由記述の中では、FIFTYS PROJECT への好意的なコメントが多くあった。それらの小縁とは、FIFTYS PROJECT が、情緒的サポート、道具的サポートの提供元になっていたことが確認できる。

FIFTYS PROJECT を通じた勉強会や交流会のみならず、そこで築き上げた人的ネットワークによって、選挙期間中の励まし合いを行えたこと。選挙に出馬することは、ときには

問題の矢面に立ち、孤立感を経験することもあるところ、同じような「新人女性候補者」という立場での情報交換や言語交換は、相互のメンタルケアという点においても無視し得ない役割があったと考えられる。

このように、プロジェクト自体に対する不満はなく、多くの支持を獲得していたものであった。その前提は踏まえた上で、参加者の記述カードから、今後の活動の課題にさらに求められる役割をいくつか例示する。

#### ・ 情動的サポートの提供

▶ 出馬後ロードマップ：出馬することは、どのようなイベントを経験するものなのか。議員になった後の活動はどのようなものなのか。必要な資金や人員はどのようなものなのか。熟慮するために必要なチャートの提供は、多くの当事者が求めているものであるといえる。

▶ 道具的レパトリーの整理：資金の確保手段、人員の確保手段、公職選挙法の基本的解釈の提供など、困ったときに用いることのできる手段そのもののありかを整理し、情報提供すること。

▶ 情報ストックヤード：FIFTYS PROJECT の場合、ジェンダー関連のトピックスに関心を持つ参加者が多い。個別の主張については候補者によって異なるものの、ジェンダー問題などに関連した基本的な情報などについては、ファクトシートをまとめることで候補者が引用可能な状況を作る。

#### ・ 情緒的サポート

▶ ジャーナリングとケアの提供：記録を兼ねた情報共有に加え、瑣末な「愚痴」であったとしても吐き出すことのできる、心理的に安心感を得られる場所の共有と、必要に応じたリモートケアなどの仲介。

▶ よくあるネガティブイベントの事例集：ハラスメントとまでは言えないとしても、ネガティブな感情を抱きうるような経験をまとめることで、心理的防御への備えを提供すると共に、孤立感を防ぐ試み。

▶ メンタリングプログラム：ロールモデルとなる先輩政治家や選挙支援者などから、助言やエピソードをシェアする機会を増やす。

▶ 交流会およびネットワークの確保：「横のつながり」は、参加者にとって大きな意味を持つものであった。実際には多忙でなかなか会えなかった・コミットできなかったという参加者もいたため、より平易で持続的な繋がりを模索。

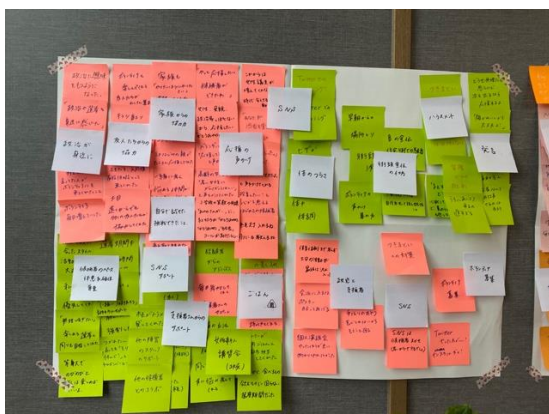
#### ・ 道具的サポート

▶ 候補者支援バンク：人材や資金面などの提供、あるいは提供元の仲介を行う。

- ▶ マテリアルフォーマットの提供：パンフレットやウェブサイトなどを作成する際に、ベースとなるフォーマットを提供する。
- ▶ SNS サポート：候補者が若いとあって、当人が SNS などの知識が豊富であるとは限らず、ボランティアや事務所スタッフも同様であるため、テクニカルサポーターなどを提供する。

もちろん、選挙ボランティアの紹介や育成などを含め、団体としての理念を超えたり、リソース上の困難があるため、すべての例を実践する必要はない。本調査などに基づき、出馬経験者が体験しがちなイベントについて事例紹介しつつ、対処事例を紹介するだけでも、相応に有用であると思われる。

参考：ワークショップの様子



詳細記事

[https://www.huffingtonpost.jp/entry/story\\_jp\\_645f83a0e4b0c10612ebed88](https://www.huffingtonpost.jp/entry/story_jp_645f83a0e4b0c10612ebed88)

ハフポスト「また一つ、社会は変わった。統一地方選に挑んだ20・30代の女性たちが渡す『次のバトン』とは」

## 調査Ⅱ：アンケート

プロジェクト参加者には、ワークショップ実施後、アンケートを配布し、回答してもらった。調査項目の多くは、内閣府男女共同参画局が委託して行われた調査「女性の政治参画への障壁などに関する調査研究報告書」を参照。量的調査としての活用には限度があるものの、参考として比較可能になるよう心がけた。

### 質問紙の詳細

質問紙は、以下のものを使用。会場参加者には紙で配布し、オンライン参加者には Google フォームを利用して回答してもらった。

Q1. あなたが立候補した理由やきっかけについて、以下の項目がどれくらい当てはまるか教えてください。

- 1 あてはまらない
- 2 あまりあてはまらない
- 3 どちらでもない
- 4 ややあてはまる
- 5 あてはまる

q1\_1 議員や首長となり課題を解決したいという使命感から

q1\_2 マスメディアやソーシャルメディアの情報から政治家になりたいという気持ちが育まれたため

q1\_3 国政や地方政治に、女性の声を反映させるため

q1\_4 学校教育を通して、政治家になりたいという気持ちが育まれたため

q1\_5 政治塾や模擬議会、政治参画に係るシンポジウム等に参加したことをきっかけに

q1\_6 ロールモデルにあこがれて

q1\_7 地元からの要請があったため

q1\_8 政党や所属団体からの要請があったため

q1\_9 政治家である/あった親族の後継となるため

q1\_10 政治家からの後継の要請(声掛け)があったため

Q2. あなたが特に力を入れて取り組みたいと思っている分野を、3つに絞って丸をつけてください。

- 1 教育・文化・スポーツ
- 2 防災・減災
- 3 雇用・地域経済活性化
- 4 農林・水産
- 5 出産・子育て、少子化対策
- 6 介護・福祉
- 7 行財政改革
- 8 健康・医療
- 9 運輸・道路
- 10 観光
- 11 環境・エネルギー
- 12 男女共同参画
- 13 安全保障
- 14 その他

Q3. 立候補を決める段階から選挙期間の間に、以下のような経験をしましたか？あなたに当てはまる度合いをおしえてください。

- 0 全くなかった
- 1 ほとんどなかった
- 2 たまにあった
- 3 頻繁にあった

- q3\_1 性別に基づく侮蔑的な態度や発言
- q3\_2 投票、支持の見返りに何らかの行為を要求
- q3\_3 SNS、メール等による中傷、嫌がらせ
- q3\_4 付きまとい、ストーキング
- q3\_5 年齢、婚姻状況、出産や育児などプライベートな事柄についての批判や中傷
- q3\_6 性的、もしくは暴力的な言葉(ヤジを含む)による嫌がらせ
- q3\_7 身体的暴力やハラスメント
- q3\_8 交際経験、性体験などプライベートな事柄についての質問や発言
- q3\_9 必要以上に身体を近づける、身体に触れるなどの過度な接近
- q3\_10 個人的な連絡先の交換や私的なメッセージのやりとりの要求

Q4. 立候補を決める段階から選挙期間の間に、次のような問題を感じましたか？あなたに



当てはまる度合いをおしえてください。

- 1 感じなかった
- 2 あまり感じなかった
- 3 どちらでもない
- 4 やや感じた
- 5 感じた

- q4\_1 活動に係る資金の不足
- q4\_2 生計の維持が難しい
- q4\_3 専門性や経験の不足
- q4\_4 人脈・ネットワークを使って課題を解決する力量の不足
- q4\_5 家族の理解やサポートが得られない
- q4\_6 家庭生活(家事、育児、介護等)との両立が難しい
- q4\_7 政党や後援会の理解やサポートが得られない
- q4\_8 地元の理解やサポートが得られない
- q4\_9 政治は男性が行うものだという周囲の考え
- q4\_10 他の仕事との両立(兼業)が難しい
- q4\_11 地元で生活する上で、プライバシーが確保されない
- q4\_12 他の議員等の理解やサポートが得られない
- q4\_13 通称(旧姓を含む)を使用できない
- q4\_14 性別による差別やセクシャルハラスメントを受けることがある
- q4\_15 選挙陣営から、女性候補者であることを強調するように求められる(家庭や育児環境など)
- q4\_16 マスメディアの報道で女性候補者であることを強調される
- q4\_17 マスメディアの報道で家庭に関する事柄を重視される
- q4\_18 マスメディアの報道で外見(容姿、服装、化粧等)に注目される
- q4\_19 SNSの投稿で女性候補者であることを強調される
- q4\_20 SNSの投稿で家庭に関する事柄を重視される
- q4\_21 SNSの投稿で外見(容姿、服装、化粧等)に注目される

Q5. あなた自身について教えてください

- q5\_1 開票当日の年齢
- q5\_2 今回の選挙を含む、これまでの立候補回数
- q5\_3 子どもの有無

- 1 いる  
0 いない
- q5\_4 子どもの年齢（複数の場合はそれぞれの年齢をご記入ください）
- q5\_5 立候補時の雇用形態と産業・職種（例：フリーランスのコンサル、デザイン会社の正社員など）
- q5\_6 選挙で立候補した議会
- 1 都道府県議会
  - 2 政令指定都市議会
  - 3 市区議会
  - 4 町村議会
  - 5 その他
- q5\_7 立候補した選挙区の自治体の人口
- 1 5万人未満
  - 2 5万人以上、20万人未満
  - 3 20万人以上
- q5\_8 現在の選挙区における居住年数
- q5\_9 最終学歴
- 1 中学校卒
  - 2 高校卒
  - 3 専門学校卒
  - 4 短期大学卒
  - 5 4年制大学卒
  - 6 大学院修了
  - 7 その他
- q5\_10 家族や親族における政治家経験者の有無
- 1 いる
  - 0 いない
- q5\_11 差し支えなければお名前を記入してください
- q5\_12 差し支えなければ選挙結果をおしえてください
- q5\_13 得票数
- 1 当選
  - 0 落選
- q5\_14 順位
- q5\_15 記入内容について、事務局からの問い合わせや、メディア取材への紹介などは可能ですか。
- 1 はい

0 いいえ

q5\_16 連絡可能なメールアドレスをご記入ください

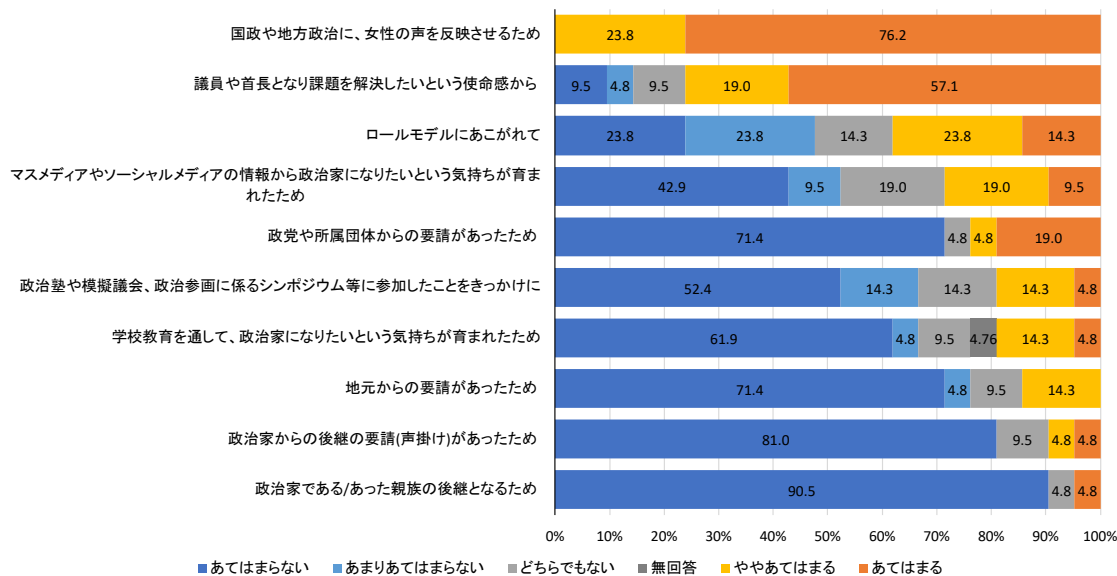
q5\_17 そのほか、出馬して感じた制度上・活動上の課題や問題について、自由にお書きください。

アンケート分析

以下、設問ごとの分析結果に触れていく。

Q1. あなたが立候補した理由やきっかけについて、以下の項目がどれくらい当てはまるか教えてください

「Q1. あなたが立候補した理由やきっかけについて、以下の項目がどれくらい当てはまるか教えてください」の回答結果について、「あてはまる」「ややあてはまる」の割合が多い順にグラフを作成した。



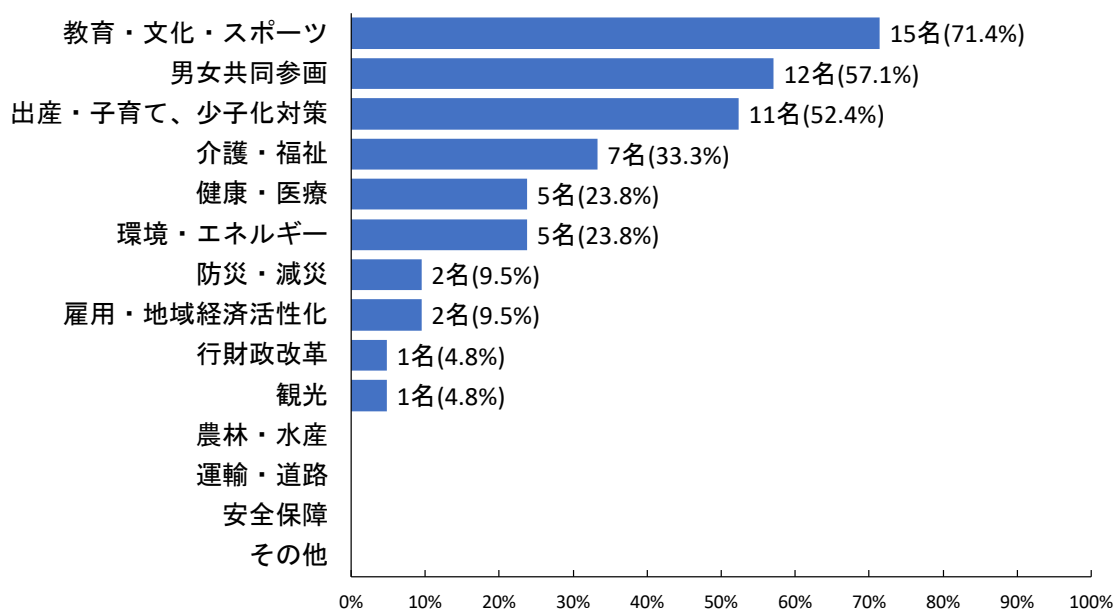
最も多かったのは「国政や地方政治に、女性の声を反映させるため」という回答であり、その割合は、内閣府調査「女性の政治参画への障壁等に関する調査研究報告書」と比べても圧倒的に多かった。FIFTYS PROJECT 参加者の場合、全員がこの項目に「あてはまる」「ややあてはまる」と回答していた（内閣府調査の場合は、女性のみで回答率が61.5%）。

次いで多かったのは、「議員や首長となり課題を解決したいという使命感から」、そして「ロールモデルにあこがれて」であった。「使命感」は、内閣府調査では女性回答者で69.6%、今回調査では76.1%。「ロールモデル」は内閣府調査では33.4%、今回調査では38.1%であった。

逆に少なかったのは、「政治家である／あった親族の後継となるため」であり、内閣府調査では 27.3%であったのに対し、今回調査では 4.8%であった。

Q2. あなたが特に力を入れて取り組みたいと思っている分野を、3つに絞って丸をつけてください。

「Q2. あなたが特に力を入れて取り組みたいと思っている分野を、3つに絞って丸をつけてください」の回答結果について、選択された割合が多い項目順にグラフを作成した。

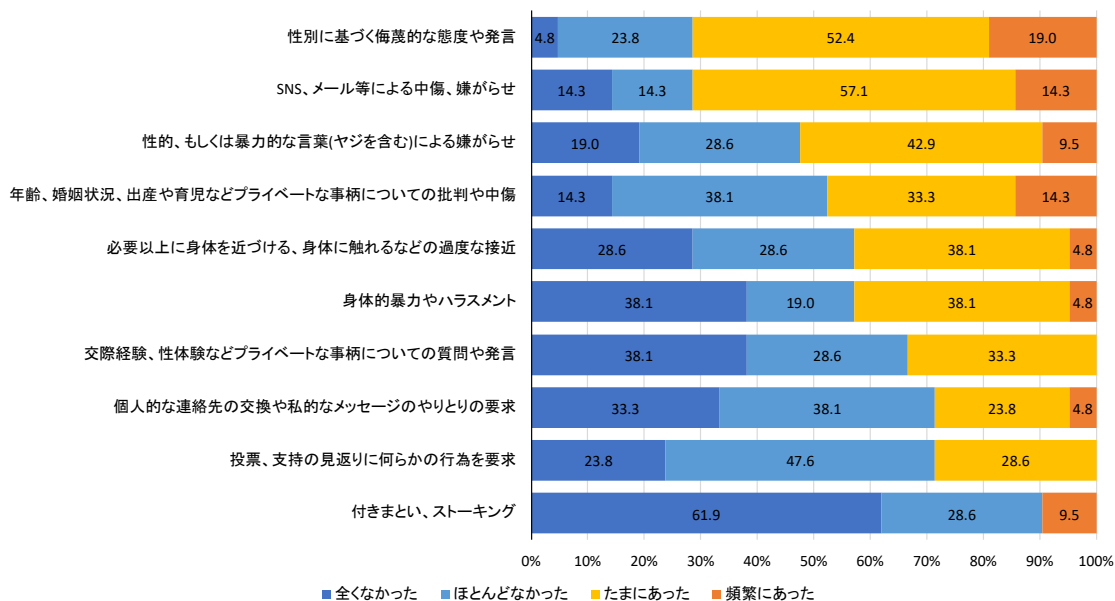


上位3つに着目すると、「教育・文化・スポーツ」(71.4%)、男女共同参画(57.1%)、「出産・子育て、少子化対策」(52.4%)の順であった。内閣府調査の場合、女性回答者で「教育・文化・スポーツ」(26.7%)、男女共同参画(14.6%)、「出産・子育て、少子化対策」(41.3%)となっており、プロジェクト参加者の関心の傾向が、全国での出馬経験者との比較によっても可視化することができた。

「農林・水産」「運輸・道路」「安全保障」においてはいずれも0%となっていた。これらの項目は、内閣府調査においても、いずれも一桁(それぞれ4.3%、4.9%、5.3%)であり、著しい偏りとまでは言えないだろう。

Q3. 立候補を決める段階から選挙期間の間に、以下のような経験をしましたか？あなたに当てはまる度合いをおしえてください。

「Q3. 立候補を決める段階から選挙期間の間に、以下のような経験をしましたか？あなたに当てはまる度合いをおしえてください」の回答結果について、選択された割合が多い項目順にグラフを作成した。



まず全体として、多くの項目において、経験率が少なくなかったことだ。これは、選挙活動における安全を考える上でも、課題が大きいことを再確認させられる。

特に多かったのは、「性別に基づく侮蔑的な態度や発言」（頻繁にあった、たまにあった、を合わせて71.4%）、「SNS、メールによる中傷、嫌がらせ」（71.4%）、「性的、もしくは暴力的な言葉（ヤジを含む）による嫌がらせ」（52.4%）などであった。これは内閣府調査の各数字（それぞれ27.2%、23.1%、20.4%）よりも多い数字となった。

また、「年齢、婚姻状況、出産や育児などプライベートな事柄についての批判や中傷」（本調査47.6%、内閣調査21.6%）、「身体的暴力やハラスメント」（本調査42.9%、内閣調査14.8%）など、他の諸項目においても高い数字となっていた。

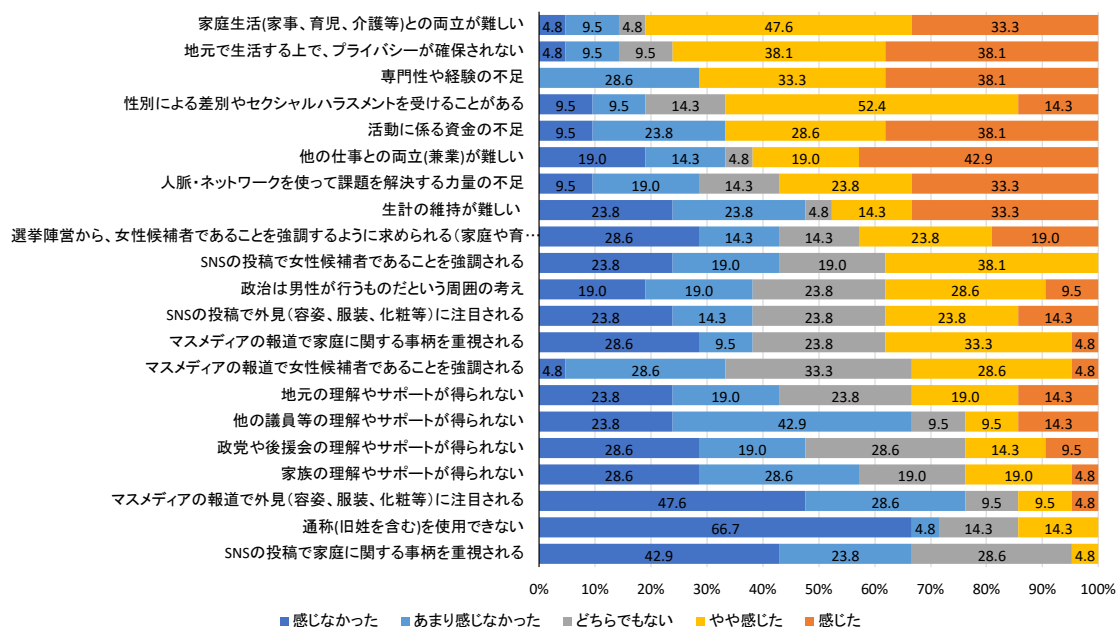
この数字の差は、いくつかの理由が考えられる。一つはそもそもとして、内閣府調査においては、本設問を必須回答としなかったことで、集計上の違いが現れたこと。調査対象の年齢、地域、出馬対象と地域規模などが異なることで、回答者の傾向が異なることなどは留意が必要である。

また、本調査においては、より若く、初めての出馬経験であり、なおかつ多くの候補者が、ジェンダー問題についての意識が高いことから、ハラスメントを経験しやすいだけでなく、ハラスメントを把握しやすいという背景も関わっているかもしれない。場合によっては、政治スタンスや振る舞い傾向などによっても、攻撃が増減する可能性もある。

いずれにしても、立候補支援にあたっては、こうしたさまざまなネガティブ体験についての情報共有や相談体制、そして体験機会そのものを減少させる社会発信などが必要であるとわかる。

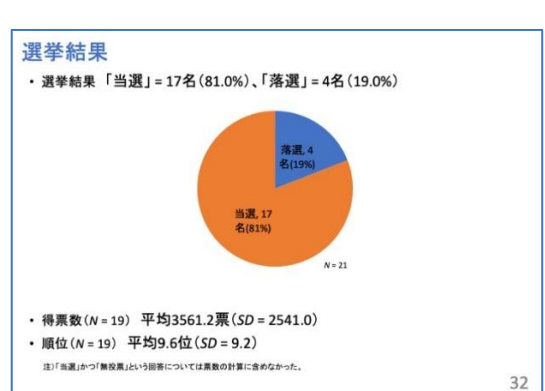
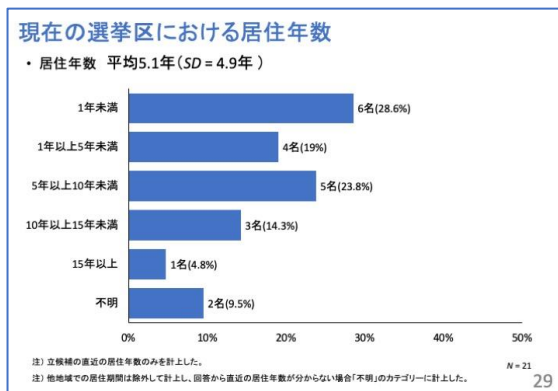
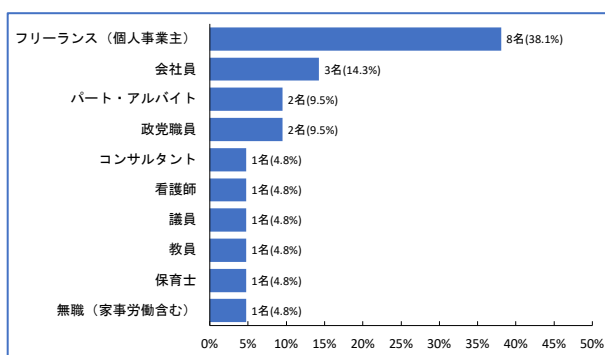
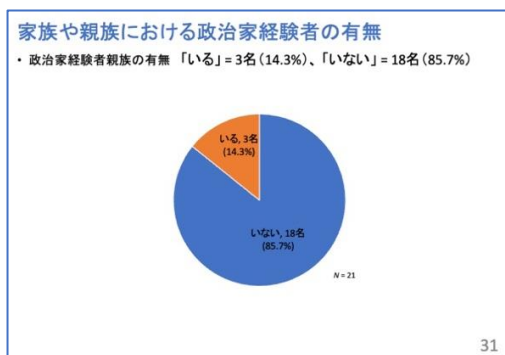
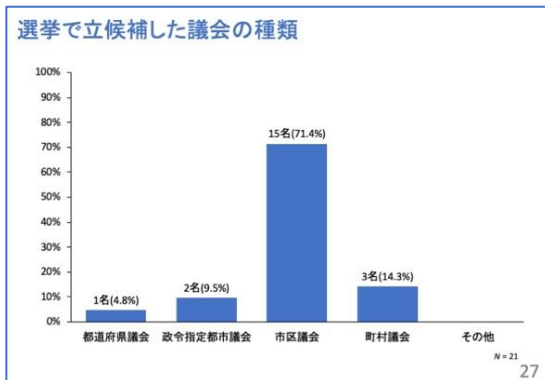
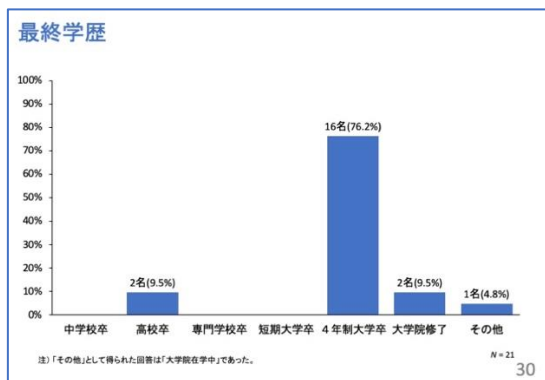
Q4. 立候補を決める段階から選挙期間の間に、次のような問題を感じましたか？ あなたに当てはまる度合いをおしえてください。

「Q4. 立候補を決める段階から選挙期間の間に、次のような問題を感じましたか？ あなたに当てはまる度合いをおしえてください」の回答結果について、選択された割合が多い項目順にグラフを作成した。この項目は、内閣府調査に加えて、独自の設問項目も含めている。



最も多かったのは「家庭生活(家事、育児、介護等)との両立が難しい」であり、「感じた」「やや感じた」を合わせると 80.9%であった。50%を超えていた項目を列挙すると、「地元で生活する上で、プライバシーが確保されない」(76.2%)、「専門性や経験の不足」(71.4%)、「性別による差別やセクシャルハラスメントを受けることがある」(66.7%)、「活動に係る資金の不足」(66.7%)、「他の仕事との両立(兼業)が難しい」(61.9%)、「人脈・ネットワークを使って課題を解決する力量の不足」(57.1%)となっていた。

その他基本属性



FIFTYS PROJECT の今回プロジェクト参加者の傾向としては、「最終学歴が大学卒以上」「市議会出馬」「家族や親族の政治家経験者なし」が多く、「フリーランス (個人事業主)」も多かった。また、Uターン経験者や移住者の割合も多かった。

こうした傾向から、本プロジェクトが新たな政治風土を作る上で重要な役割を果たしているのを見ることが出来る。同時に、支援すべき課題も浮き彫りになる。

参加者の中には、経済的に不安定で、政治リソースが少ない場合が少なくない。いわゆる「地盤、看板、鞆」を持たないものの挑戦となるため、候補者が孤立するような場面を防ぐ

必要がある。

世襲ではなく、地縁が少ないという状況でも、多様な経験をした人の声を届けるという試みは、地域の活性化においても重要な意味を持つ。そのような背景を共有した議員や候補者を、ロールモデルとして可視化することもまた、立候補の動機づけを促しつつ、疎外感などを防ぐために重要な意味を持つと言えるだろう。

おわりに

本調査は、FIFTYS PROJECT の活動全般の評価を行うものではなく、あくまでワークショップとアンケートを元に分析したものであるが、それでも相当の傾向や意義について把握できたものといえる。

FIFTYS PROJECT 参加者の回答分析や傾向分析は、今後の支援を行う上で、具体的なヒントに満ちたものになっていた。出馬を後押しする動機づけの提供。情動的サポート、情緒的サポート、道具的サポートの提供。孤立を防ぐネットワーク作り。ロールモデルの発信。そして選挙活動や政治活動全般における有害な風土の改善について訴えること。

こうしたサポートや発信は、それぞれ相互に影響を与えながら、ジェンダー不均衡な状況を正しつつ、より広い住民の声を政治に届けるという活動が加速していくことが期待できる。FIFTYS PROJECT のこれまでの活動経験によって得られた知見や、本調査の結果が、候補者支援や政治におけるジェンダーギャップの是正のために、有効に活用されることを期待したい。